

闇に浮かび上がる能舞台、
水面に揺らめく二本のかがり火、
野村万作・萬斎親子が舞い謡う―。

野村万作 新狂言の会

演目 狂言「磁石(じしゃく)」

狂言「木六駄(きろくだ)」

出演 野村万作 野村萬斎 石田幸雄

深田博治 月崎晴夫 内藤連 村井之

コラーレ風のうたげ

2012. **8/31** **金** 開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター **コラーレ** 〈野外能舞台〉

一般6,000円 高校生以下2,000円 障がい者手帳をお持ちの方5,000円

■当日は18時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただきます。チケットはコラーレだけで発売いたします。
●この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
●未就学児の入場はご遠慮願います。公演中、未就学児を対象とした「一時保育(無料)」を実施しています。公演前日の18:00までにお申し込みください。
●雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。天候によっては、会場がカーターホールに変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
主催／財団法人黒部市国際文化センター 協賛／チューリップテレビ 後援／黒部市 黒部市教育委員会

●お問い合わせ●

コラーレ 〒938-0031 黒部市三日市20番地

TEL.0765-57-1201 FAX.0765-57-1207

info@colare.jp <http://www.colare.jp/> 開館時間:9:00~22:30(土曜~23:00)／毎週水曜日休館





晩夏の闇に浮かび上がる、
日本最古の喜劇“狂言”を
ご堪能ください。

コラーレの風を

感じながら

今年もコラーレでの

薪狂言の季節がやって参りました。

今回は、太郎冠者がシテ（主役）の中でも名作・大作として名高い「木六駄」を致すことにしました。太郎冠者が主人の命で大雪の中、十二頭の牛に木六駄、炭六駄を背負わせ、伯父の元へ峠を越えていくお話。今まで何度となく演じておりますが、最近では、太郎冠者が牛を慈しむ気持ちにより一層わかるような気がしています。コラーレの風を感じながら演ずることで、更なる発見があれば、嬉しいことです。

もう一演目の「磁石」は、騙された男が、逆に悪者を騙す変化のある狂言です。趣きの異なる二つの演目をお楽しみ頂ければと存じます。

野村万作

の
むら まん さく
野村万作

狂言師



一九三一年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章など、多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に「月に憑かれたヒコ」「子午線の祀り」「秋江」「法螺持」などがある。著書に「太郎冠者を生きる」（白水社）、ブックス、「狂言三人三様・野村万作の巻」（岩波書店）がある。

の
むら まん さく
野村萬斎

狂言師

一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござるの座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞等を受賞。著書に「萬斎でござる」MAN SAI〇解体新書（朝日新聞社）、「狂言三人三様・野村萬斎の巻」（岩波書店）等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。



い
しだ さい
石田幸雄

狂言師

一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。また新しい試みの舞台にも意欲的な発表が多い。普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。日本大学芸術学部、学習院大学非常勤講師。「雙ノ会」で二〇〇六年度芸術祭大賞、二〇一一年観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。



ふか た ひろ
深田博治

狂言師

一九六七年生。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。能楽協会会員。万作一門の若手研鑽会「狂言ざん座」同人。すでに『奈須与市語』『三番受』『釣狐』等を抜き、「万作の会」の演者の一人として活躍している。

つ
さき はるお
月崎晴夫

狂言師

一九六四年生。野村万作に師事。能楽協会会員。万作一門の若手研鑽会「狂言ざん座」同人。『奈須与市語』『三番受』を抜くなど狂言の舞台に出演する一方、舞台「子午線の祀り」「国盗人」にも出演。「万作の会」の演者の一人として活躍している。

薪狂言 番組

解説 石田幸雄

火入れの儀

狂言 磁石 じしゃく

遠江（とおとうみ）の国の田舎者が上京する途中、近江の国の大津松本の市を見物していると、すっぱ（いたずら者）が言葉巧みに近づいてきて、田舎者を定宿に連れ込む。実はこの宿の主人は人買いで、すっぱから田舎者を買う約束をする。この話を盗み聞きした田舎者は、先回りして金を受け取り逃げ去る。あわてて追いかけたすっぱが太刀を抜いて振り上げると、田舎者は機転を利かせて、自分は磁石の精だと名乗り、大口を開けて太刀を飲み込もうとする。驚いたすっぱは……。

中世の時代のバイタリテイを感じさせる、いかにも狂言らしい荒唐無稽なお話です。

すっぱ 野村萬斎

田舎者 深田博治
宿屋 月崎晴夫

後見 村井一之

狂言 木六駄

きろくだ

主人は、都の伯父へのお歳暮として、炭を六駄と木を六駄、それに上等の樽酒を届けるよう太郎冠者に命ずる。雪の中、荷を積んだ十二頭の牛を追いかけるが、あいにく茶屋にたどり着いた太郎冠者は酒を所望するが、あいにく茶屋が切らしていたので、届けるはずの樽酒に手をつけ、茶屋と酌み交わすうちに全部飲み干してしまふ。更に酔った勢いで木六駄まで茶屋にやってしまふ。残りの炭六駄をのせた牛を引いて伯父のもとへ行く太郎冠者だった……。

降りしきる雪の中、蓑笠をつけ、一本の追竹だけで十二頭の牛を追う太郎冠者の演技が見どころです。また、酒宴の際に酔態で舞う「鶉舞」など、狂言として重厚な構成の中に庶民の生活感情も描かれた秀作。故六世野村万蔵の至芸が今に語り継がれる狂言です。野村万作の円熟味溢れた自在の芸をお楽しみください。

太郎冠者 野村万作

主 内藤 連
酒屋 野村萬斎
伯父 石田幸雄

後見 月崎晴夫